

W杯個人総合優勝

最強を証明



(写真提供)時事通信フォト【SAJ令和4承認第00547号】

W杯ジャンプ男子個人第28戦は3月27日、プラニツァ(スロベニア)で開かれ、小林陵侑選手は8位に入り、2位に100ポイント以上の大差をつけて、3シーズンぶり2度目の個人総合優勝を決めました。

今季は、初戦2位と表彰台に立つと、第3戦で優勝し、通算勝利数で日本男子最多の20勝を達成するなど調子を上げていきましたが、第4戦、第5戦は新型コロナウイルス検査で陽性となり欠場。復帰後の第7戦はブランクを感じさせない強さで今季2勝目を挙げ、好調をキープ。年末年始に伝統のジャンプ週間(第10〜13戦)で4戦中3勝を挙げ、個人2度目の総合優勝を果たしました。

2月4日から20日まで開かれた北京オリンピックでは、個人2種目(ノーマルヒル金、ラージヒル銀)でメダルを獲得するなど安定したパフォーマンスを続け、個人総合トップを守りました。

終わってみれば、シーズン8勝、通算27勝(日本男子歴代最多)を挙げるなど出場した全試合でトップ10に入る抜群の安定感で五輪、W杯、ジャンプ週間の主要タイトルを総なめする歴史的シーズンとなりました。

★小林陵侑選手W杯個人戦成績★

戦月・日	会場	位
1	ニジニタギル	②
2	ニジニタギル(失格)	-
3	ルカ	①
4	ルカ(欠場)	-
5	ヴィスワ(欠場)	-
6	クリンゲンタール	⑦
7	クリンゲンタール	①
8	エンゲルベルク	②
9	エンゲルベルク	①
10	オーベルストドルフ	①
11	ガルミッシュ	①
12	ビショフホーフエン	①
13	ビショフホーフエン	⑤
14	ビショフホーフエン	④
15	ザコパネ	④
16	札幌(中止)	-
17	ティティゼー	④
18	ワイリンゲン	①
19	ワイリンゲン	④
20	ラハティ	⑦
21	ラハティ	①
22	リレハンメル	②
23	オスロ	⑥
24	オスロ	⑦
25	オーベルストドルフ	⑩
26	オーベルストドルフ	⑥
27	プラニツァ	⑤
28	プラニツァ	⑧

優勝(8回)、2位(3回)、4位(4回)、5位(3回)、6位(2回)、7位(3回)、8位、10位(各1回)で、合計162.1点を記録